

# 日本カメラ

NIPPON CAMERA

特集 デジタルの「壁」  
越えろ!

ガンコな銀塩派も納得の  
デジタル一眼レフ攻略法

あえてデジタル派にもオススメ  
フィルム&銀塩カメラの愉しみ方

注目の新製品をピックアップ  
**PIE2006レポート**

ぶらり中古カメラ店巡礼～大阪・京都編～  
ホースマン3Dで赤瀬川原平が撮る  
さわやかな新緑を写しに行こう

**特報！ライカM3J**

〈テストレポート〉リコーGRデジタル  
竹内敏信・三留理男・春日広隆・太田威重

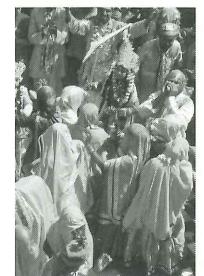
5  
2006 May

笹岡啓子 ■ Kanko-5

「斎場御獄」と書いて  
「せーふあうたき」と読む。  
世界遺産にも登録されて  
いる現役の靈場。沖縄へ  
向かう機内ビデオで「絶  
対に行つてみてください  
っ！」とレボーターの女  
の子がいうのを見て、素  
直に行つてみると、す  
ぐに残っているけれど、いわ  
ゆるシーズンオフには観  
光客用に風車がからから  
と回り、岩盤のあちこち  
からはおどろおどろしく  
湯気が立ち上る。もちろん  
順路の看板は必須でそ  
れに従つていけば、こち  
らも「絵に描いたような  
光景が用意されているの  
だけれど『本当の場所』  
を見ることはなかなか  
難しい。

F 28  
50mm  
撮影データ：ハッセルブラッド  
28  
・フジカラーニュープロ400

トレイトとなりました。モデル  
は、本誌には数年前からたびたび  
登場願っているおなじみのモデ  
ルさんです。初めて登場したとき  
はまだ高校を卒業したばかり。キ  
ュートな少女っぽい笑顔が印象的  
でしたが、そのキュートさのま  
ま、ちょっとびり大人っぽく感じられた  
今回の撮影でした。ちなみに手に  
しているのはトイカメラで知られ  
るトミー（現タカラトミー）のデ  
ジカメXiostyle（シャオスタイル  
TDG-S1）。1万円ちょっとで  
買えるトイデジカメですが、5メ  
ガピクセルの高画素機です。トイ  
デジカメは30万画素もあればとい



う時代からは隔世の感です。  
野崎正興さんのインドの奇祭を  
撮った作品は今月抜群の迫力でし  
た。口絵はまつ赤かでしたが、  
ご本人よりその直前の状況も見せ  
たいというリクエストがありま  
した。モノクロで分かりにくいか  
れませんが、掲載しておきま  
す。赤い粉が落ちてくる前は、黄  
や緑など原色鮮やかな衣装を女性  
たちは身にまとっています。（M）

存在と時間／春日広隆（かすが・ひろたか）  
1946年長野県生まれ。カリヨンルニア大学および大学院卒。国内外で個展を開催。デジタル高品位モノクロームプリントの普及活動も行っている。日本写真家協会JPS／2004年優秀賞受賞。日本写真作家協会会員、全米写真家協会会員、ニューヨーク市SOHO Photo Gallery会員。



流／竹内敏信（たけうち・としのぶ）  
1943年愛知県生まれ。名城大学理工学部卒。愛知県庁勤務の後、フリー写真家。写真展多数。主な写真集に『花風景』『天地』『四季のカメラワーク』。日本写真家協会副会長、日本旅行作家協会会員、日本写真芸術専門学校副校長、東京工芸大学講師、現代写真研究所講師。



カンボジア 希望の川～子供たちの詩～  
三留理男（みとめ・ただお）  
1938年朝鮮沙里院生まれ。日大芸術学部中退。アジア、アフリカを中心に取材を続け、第1回土門拳賞を受賞。第4回アジア・アフリカ賞受賞。第9回アジア・太平洋賞特別賞受賞。著作多数。



うそり／西村文一（にしむら・ぶんいち）  
1958年岩手県生まれ。大学卒業後、民俗学者・谷川健一氏に師事。また現代写真研究所でドキュメンタリー写真を学ぶ。以後、フリーランス。主な展示に「うそり」「北緯40度」「北の群青」日本地名研究所専任・現代写真研究所講師。



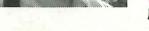
ホーリー～ヒンドゥー教の奇祭  
野崎正興（のざき・まさおき）  
1937年満州国ハイラル生まれ。早稲田大学大学院理工学研究応用物理学専攻課程修了（理学博士）。三井光学、三菱製紙で研究開発に携わる。98年から本格的に写真活動を開始。主な写真展に「技術に生きる町工場の職人達」「漆器の里」。



遠景 2004～2005  
成田アキラ N.P.F.（なりた・あきら）  
広告制作会社、現像所勤務後、フリーとして活動。広告、出版、音楽関係などで活動。写真展に「彼と彼女と二十歳前」。紙面のみでの作品発表形式作品「遠景」シリーズ98年から。



春、車窓から／内野雅文（うちの・まさふみ）  
1973年東京都生まれ。東京造形大学造形学部デザイン学科デザイン専攻1類写真コース卒。主な写真展に「野ざらし紀行」「ケータイ1996-2004」「信州にて」「カガミノナカ」「IDOLS」。写真集に『ケータイとカガミ 1996-2004』。



※口絵ページにあるコメントは特に注のないものは作者によるものです。

バス停名：菅浦（すがうら） 所在地：滋賀県伊香郡西浅井町 バス会社：湖国バス  
(バスは存続しており、現在の運行本数は一日往復12本) 撮影：2004年4月

●バス停を求めて琵琶湖湖畔を駆けにかけて、菅浦に着いた。偶然「祭」をしていて。結構有名な「祭」だそうで、県外からも観光客が大勢来ていた。東京から来ている知人の写真家の顔が見えたので、こちらも撮影に気合いが入った。このバス停は、須賀神社の境内の中にあることが特徴だった。数多くのバス停を見てきたが、ご神木に挟まれているバス停は見たことがない。この光景を撮っていると、自分も神に守られている気がしてきた。



撮影データ ■リコーGR1・GR28ミリF2.8・フジフィルム ネオパンプレスト400